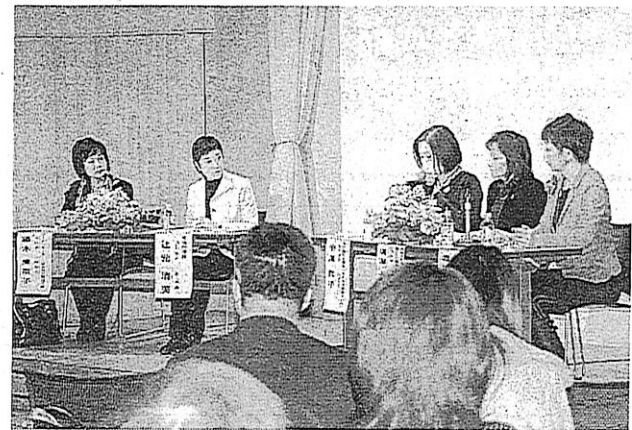


NPO法人「WANA関西」が主催したシンポジウム。シングルマザーの厳しい生活実態などが報告された—大阪市内で



母子家庭の厳しい実態報告

大阪でシンポジウム

貧困や虐待など、困難な生活環境を抱える母子家庭の支援を考えるシンポジウムがこのほど、大阪市内で相次いで開催された。同市西区のマンションで2人の幼児が母親から放置され、亡くなった事件から約7カ月。母子就労支援員や弁護士らが、支える現場の苦悩や課題を論じた。

生活支援施設 充実を訴える

衆院議員・辻元さんも参加

女性の社会的自立を支援するNPO法人「WANA関西」(同市)が主催、「貧困・DV・虐待、追いつめられる母と子」と題した。大学1年の娘を持つシングルマザーでもある母子就労支援員、中沢良子さんが「元夫からDVを受けたが、月日がたつほど恐怖感が募る」と体験を紹介。女性「被害者の心理を知ってほしい」と話した。「WANA関西」の広瀬みどり施設長は「虐待加害者になってしまっ母も精神的、社会的暴力を受けてきた背景がある。母子施設は最後のとりで」と強調し、設備の充実を訴えた。衆院議員の辻元清美さんは、母子問題の解決

に「意思決定の場に女性の性が増やすことが大事」と主張した。

労働組合関係者や弁護士らでつくる「反貧困大阪ネットワーク実働委員会」などが主催したシンポジウムは、「親と子のケアが必要」と主張。「駅の近くやスーパーに寄り道スペースをつくらせて、『迷惑かけていいからSを出して』と発信してはどうか」と提案した。【反橋希美】